

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表:平成31年2月5日

事業所名 サポートセンターあいぷろ 保護者等数(児童数) 43 回収数 22 割合 51.2 %

	チェック項目	評価			ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	4	0	0	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19	3	0	0	専門的な知識(資格)があるのかはわからない。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	17	5	0	0	エレベーターがあるとよい。
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	20	2	0	0	詳しく知らない。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	18	4	0	0	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	12	6	0	偶然、外出先ではあると思う。交流はあまりない。
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19	3	0	0	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22	0	0	0	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	2	0	0	
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	12	1	0	不参加だったため、わからない。保護者同士の連携はほとんどない。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	14	7	1	0	
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	2	0	0	

現在、児童発達支援管理責任者、児童支援員を配置し、介護福祉士、音楽療法士、作業療法士、教員免許、保育士資格を持ったものが従事しています。

必要に応じて、階段に設置できる昇降機等を考えていきたいと思っております。

新規契約の際に、詳しくアセスメントさせていただいております。また、年2回のモニタリングを行い、お子様の課題や状況など保護者様本人様から聞き取りを行いながらアセスメントの更新とともに計画の変更等行っております。

今のところ、交流等の機会を設ける予定はありません。

不定期ではありますが、茶話会を開き、保護者交流の場とさせていただいております。

	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	18	4	0	0	具体的に思い浮かばない。	年2回広報誌の発行は行っていますが、放課後個別で会報は出していません。活動の様子はホームページからSNSを通して発信していますが、今後は定期的に活動報告を配布する計画です。
	14	個人情報に十分注意しているか	16	6	0	0	支援ファイルの貸出期間が長かった。	預かり期間を明確にして、管理します。
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	6	11	4	1	地震発生時利用していたらどうするのかわからない。以前感染症のプリント配布があった。毎年あるといい。	緊急時対応マニュアルに沿って対応しています。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	13	4	0	詳しく知らない。メールで安否訓練している。	毎年2回以上の訓練を実施しています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	17	5	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	19	3	0	0	嫌がる日もあるが、行ってしまえばOK。行けば楽しそう。	途切れのない個別支援が提供できるように考えています。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自

公表:平成31年2月5日

事業所名 サポートセンターあいぷろ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		様々な活動ができる十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		職員は専門職員を加配している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		手すりを設け、玄関にはスロープを設置している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的にアンケート調査を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所ホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は実施していない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修と専門的な研修に参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングを年に2回行い、その際にアセスメントも一緒に行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		決まった形式による聞き取りを行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ会議にてプログラムの確認をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者に合わせた活動内容を考えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間に応じた取り組みを実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別の課題を踏まえながら集団活動を大切にしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ルーティンワークとして取り組んでいる。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ルーティンワークとして取り組んでいる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ルーティンワークとして取り組んでいる。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		年2回モニタリングを行い、支援会議にて計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者に限らず、参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		基本的に保護者を通して行っている。送迎が遅れる場合などは事前に直接学校に連絡をする場合もある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		アセスメントの際になるべく情報提供を依頼しているため、継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	依頼があれば、連携協力をする体制。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		部会の研修等に参加して、助言を受ける機会を設けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		部会の連絡会等に積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を活用したり、モニタリングや送迎の際に確認している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		子どもとの関係の取り方等、助言をしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に丁寧に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		適宜、相談があれば対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		不定期ではあるが、茶話会を開き、保護者同士の交流の場を設けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情処理の対応について、担当等決めており、適切に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	ホームページにて活動の様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		他機関と情報共有する際には、必ず承諾を得ている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		各々に応じて対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		以前は行っていたが、今は行っていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		防犯マニュアルが策定されていないため、早急に検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		県の研修に参加している。また、内部研修でも虐待防止の研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束が必要とされる利用者がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーに関する情報は保護者から得ている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		事業所内で共有はしているものの事例集の作成に至ってはいないため、作成する必要がある。